

創立の聖年のための
靈的歩み



第3段階

2022年11月21日-2024年2月10日

第3段階

聖年：新たにされた忠実さ、信頼、
そして分かち合われる喜び

2023年4月9日復活の主日 - 8月30日

師であり主であるイエスの弟子たち（ルカ 24,6-8 参照）
主の霊がわたしの上におられる。

これによって、油の注ぎをもってわたしは聖別され、
囚われている人に解放を宣言し、
主の恵みの年を告げるため、
貧しい人々に喜びの便りを告げるため派遣された
（イザヤ 61 章、ルカ 4,18-19 参照）

わたしたちは、聖霊の働きによって、
道・真理・いのちである師イエスにおいて、
「使徒である恵み」を受ける。
神の母マリアや福音の女性たちのように…
（『生活の規範』9）

わたしたちは、師とともにあるため、同時に、派遣を受け
るためにも、師に帰属するものです（マルコ3,13-14参照）。
わたしたちは、解放し救いをもたらす福音の喜びを宣べ伝
えるために、わたしたちが彼のミッションを継続するよう、
というよりむしろ、彼がわたしたちの中でミッションを継

続することができるようにすることが求められているので
す

わたしたちは、自らを明け渡し虚しくされた師の死を個人的に共同体的に経験してこそ、師が人類に捧げようと望んでおられる完全ないのちの信じる証し人となることができるのです。

深めと祈りのために役立つテキスト

カリスマテキストより

『根から見た大樹』¹

この試練に直面した彼女（マードレ・スコラスチカ）の精神的成熟の概要は、1946年5月7日、ヴィラ・サン・ジュゼッペ²の「亡命先」からティモテオ・ジャッカルド師³へ書いた手紙から読むことができる。

ローマ、サン・ジョゼッペ修道院 1946年5月7日

尊敬するシニョール・マエストロ

キアヴァリ⁴からあなたの手紙を受け取りました。主があなたの慈愛に報いられますように。あなたの助言は貴重であり、わたしにとっては非常に有益なものです。ありがとうございます。

そして、あなたの祈りにも感謝いたします。わたしは祈りが必要だと感じています。しかし、主の助けにより、わたしはいつもすべてを受け入れ、真理の光ですべてを見、すべてのものからご自身の栄光とわたしたちの功德の機会を導き出す方法を知っておられる主に、自分を委ねるようにしています。

このような考えが浮かぶとき、わたしはイエスが配慮してくださったすべてのことに感謝します。なぜなら、すべてはわたしの大きな徳のためであり、わたしは自分の罪、特に大きな高慢の罪のために、イエスにすべてを捧げます。そして、このような処分を下した人たちを心から許すと伝えます、（というのも、パゼット司教のその手紙に書かれている、「正規の有効な委任状もなく、統制もなく、

¹ R. チェザラート-G. オベルト『根から見た大樹2』PDDM, ローマ 2000年 p.136-138.

² ローマ、聖パウロ修道会修道院、ヴィア・ポルトゥエンセ 746番地。また、この手紙は、M.ナザレナと M.イグナツィアが修道会聖省の命令を受けて送ったものであることを明白に示している。

³ 「聖パウロ修道会パウロ家族歴史アーカイブ」—マードレ・スコラスチカ、ジャッカルド神父、マードレ・ルチア・リッチの他の手紙もこの資料による。

⁴ 1940年からキャヴァリに、聖パウロ女子修道会の書店があった。Sr.M.スコラスチカに宛てたジャッカルド神父の手紙は、今に至るまで見つかっていない。

ピエ・ディシェポレのグループ内で好きなようにしたりしなかったりする人」というのは絶対に嘘で、わたしはこんなことは一切していないのですから)。そして、口頭でも文書でも、わたしは常にプリマ・マエストラの従属のもとですべてを行い、ピエ・ディシェポレの中で行われたすべてのことをプリマ・マエストラに質問し、説明しました。また、M.ナザレナとM.イグナツィアの署名入りで修道院に送られた手紙に書かれていた、「何らかの形で正統な権威」もあったが、妨害や被害がなかったわけではないという言葉もあります、ピエ・ディシェポレたちにはまだこのようなことは起きていないので、これも偽りです。ピエ・ディシェポレたちは誰に害を与え、騒がせたのでしょうか？

わたしは長い期間、戦うことはできません。良い考えが悲しい考えを取り除くことができないと分かると、わたしは聖母に会いに行きます。聖母はわたしに大きな慰めをもたらし、いつも大きな安らぎを与えてくださいます。彼女はわたしに大きな勇気を与え、わたしを強くしてくださるので、わたしは世界で一番幸せだと感じています。そして、ここには聖なる聖櫃があり、毎日聖餐式が行われ、良き母マリアがおられ、もうすぐわたしを迎え待つ楽園への素晴らしい希望があり、これ以上何を望むことができるのでしょうか。わたしは、これで十分だと感じています。実際、わたしの精神はこれで満たされ、他のものは必要ありません。すべての被造物と地上の物に対して、わたしにはこれで十分なのです。この世のすべてのものを苦しみに変え、わたしが天国のものだけをもっと求めるようになることが、聖師の喜びでありますように。

この試練によって、わたしが何度も何度も主に向かって祈った「イエスよ、わたしを沈黙のうちに、わたしを隠れたままに、わたしを謙遜のうちに、単純さのうちに、小ささのうちに…」という祈りを、主は驚くべき形で実現されたのです。主はわたしの願いをかなえてくださったのだと思われませんか？

ピエ・ディシェポレたちに関しては、わたしは、聖師が、他の多くの修道家族のように、自分の教会に彼女たちを望んでいることを信じて疑いませんし、このためにわたしは祈り、わたしの貧しい痛みと苦しみを捧げます。それどころか、誰であろうと、わたしよりもずっと良い結果を出してくれるならば、わたしはとても嬉しく、

わたしたちが皆、主を愛し、主に栄光を帰す限り、わたしはこのことを喜ぶと確信しています…。

この試練で、よりよく身を捧げることができるようになったことを、主に心から感謝しています。わたしは生贄であり、オスチアであり、このすべてのために、わたしの甘美な救い主、十字架につけられた配偶者であるイエスの中に見捨てられ、イエスの意志がわたしの内に行われるよう、全き自由をもって、彼にわたしを捧げます。イエスがわたしを必要としてくださったことに感謝します。わたしは彼の助言に喜んで耳を傾けます。わたしは謙虚さと信頼にとどまり、思慮深さと従順さを学ぶように努めます。

アルバのすべてのシスターにわたしの言葉を伝え、わたしがいつも友愛の情で彼らを覚えていること、そして、わたしは他に何もできないので、彼女たち全員のために絶え間なく祈っていることを伝えてください。あなたがピエ・ディシェポレたちやわたしたちのすべてに気を配ってくださっていることに感謝します。わたしはいつも不甲斐ないながらも、聖師にすべてのことに感謝するよう祈っているのですが、主がこのことであなたに大きな功德を与えてくださいますように。

祝福をお願いいたします。

あなたの最も貧しい娘、シスタースコラスチカ

M.M.スコラスチカを襲った嵐は、彼女の中に希望を失わせるものではなく、むしろ、彼女が最初から受け取った「贈り物」についての確信を明らかにするものです。彼女自身が表現するように、この時期の彼女の「受難（カルワリオ）」は、復活の光に向かう修道会全体の歩みなのです。

師イエズス修道女への説教

"まことに、あなたは隠れた神！"（イザヤ 45:15）という言葉にいつも感動しています。彼は聖体の中に宿っておられます。誰が彼を知っているのでしょうか？ 誰が彼を愛しているのでしょうか？ 何年も前にその考察に立ち止まったとき、わたしはこう締めくくり

ました。"主よ、あなたを知っているだけでなく、完全に献身的にあなたを愛し、あなたの愛の秘跡を尊び、あなたの聖櫃に人々と魂をもたらす修道家族がこの教会の中に存在するように、わたしに恵みを与えてください!" ...あなたたちにとって、この日は誕生日であり、生誕記念日であり、とても大切な日なのです。だから何年も前の今日、神の御心によって、あなたの特別な使徒職に捧げられるはずだった人たちが選ばれたのです。種はもっと前に蒔かれていましたが、外部的には1923年(1924年)2月10日に、あなたたちの小さな共同体が形作られたのです。.....司祭との関わりは、常にデリケートなものでありなさい。神の母がイエスに対して行ったように、常に適切な距離感、適切な配慮、相互尊重を心がけなさい。聖スコラスチカを記念して、ベネディクト会が教会で持っている典礼の役割を思い出してください。神聖な典礼に関連するすべてのものに対する大きな尊敬の念を抱くように。あなた方はさらに多くのことをしなければなりません。外側だけにとどまらず、典礼の奥深くまで入り込み、何かもっと、他の人が行うこと以上のことを、魂を聖体に導くという真の使徒職を成し遂げなければならないのです!あなたたちの使命に必要な恵みを与えてくださるよう、聖師に祈り、あなたたちを祝福します。あなたたちは典礼の使徒職を行わなければならないのですが、この使徒職は様々な側面から考えることができます。聖なる儀式に深く参加すること、聖なる典礼の中で教会の精神を受け止め、知り、浸透させること。したがって、典礼生活に関する真の知識を身につけること。カテキズム以外にも、教会にある典礼学を聖霊の書物として敬い、大切にしなければなりません。典礼学は以下のことを提供します。

- 知るべき真理
- 実践すべき徳
- 願うべき恩恵

師イエズス修道女会の聖堂で行われる祭儀は、典礼のルールをきちんと守って、可能な限り正確に、注意深く行わなければなりません。あなた方の聖堂では、祭儀は、美しく、敬虔で、教化的でなければなりません。ミサにより良く参加し、聖歌をよく歌い、敬虔な儀式を行うことで、あなたたちの魂は豊かに養われ、神に近づくものとなるように。そこに参加した信者は真の敬虔さに感動することができます。あなた方の聖堂では、人々は神の存在をより感じ、ひざま

ずき、礼拝し、祈る必要を感じなければなりません。典礼に関する知識、実践、そして特にその精神を広めてください。

1. **構想すること。** したがってあなた方には、勉強と、特別な神学的、典礼的勉強が要求されます... わたしたちの聖なる信仰の神秘を、どれだけ美しく効果的な方法で表現できるか、そして、信じていない人、知らない人までも、すべての人に届くにはどうしたらいいか。例えば、4億7千万人の中国人のことを考えてみてください。彼らのうち、文字を読めない人が大勢います。しかし、彼らの魂に語りかけるような、完全なイラスト入りのカテキズムを提示することができるのです。

2. **実践すること。** これは技術的な部分で、絵画、彫刻、刺繍、祭服、その他様々な品物などです。どれほど多くの教会が、信者への配慮と慈愛を必要としていることでしょうか！田舎に、山に、宣教地に点在するすべての礼拝堂を考えてみてください。わたしたちと共におられる神の住まいの、何という粗末さ、何という無秩序さでしょうか！この仕事は、大きな修道会全体の存在をにかけておこなうことが必要となるでしょう！..... 音楽を大いに利用しましょう。美しい音楽を、教会の規定に沿って選びましょう。聖なる音楽は、人々を惹きつけ、特に若者を神に導くためのすばらしい手段です。よく準備された歌、よく奏でられた歌は、人々の心を高め、神へと導きます。

3. **普及させる。** 生産したものを普及させる。形は違いますが、より慎重でありながらも効果的な方法で、印刷物と同じくらい広く、広範囲に布教することです。

あなた方の修道家族は、聖霊の働きの下にあります。聖霊は、家族を照らし、治め、支え、導きます。聖霊の導きの中に、あなたたちは自分の使命を全うするための方法と手段を見出すことができます。

自分たちが何の役にも立たないことを認識し、何もできないが、イエスの助けを信じている者として、イエスの前に自らを差し出さなさい。イエスへの愛はあなた方を聡明で勤勉にし、多くの功德を得させ、多くの魂を神のもとに導くことができるようにするのです⁵。

⁵ APD 1946-47,133.140.142-144.146 ss.

非常によく言われることに従うならば、使徒職はほとんど外見的な活動だけであると考えられています。そうではなく、神の前で使徒職とは何であるかを理解する必要があります。イエスは 30 年間、隠れ、沈黙し、祈りながら、私的な生活を送られました。この 30 年間、イエスは使徒職を行ったのでしょうか？ それとも、公生活の 3 年間だけに過ぎなかったのでしょうか？ イエスは 33 年間使徒として働き、人は内的生活を大切にしなければならないと教えました。私生活では、ご自身が伝えたい使徒職、最も重要視し、すべての人に呼びかける使徒職を実践されました。

使徒職には、5つの形があります：

- 内的生活の使徒職
- 聖なる望みの使徒職
- 良き模範の使徒職
- 祈りの使徒職
- 苦しみの使徒職

このほかにも活動による様々な使徒職がありますが、このような使徒職を次のように呼ぶことができます：

- 宣教の使徒職
- 慈善の使徒職
- 説教の使徒職
- 出版の使徒職

使徒職とはどういう意味ですか？それは、神に栄光を、人に平和を与えるためのわたしたちの活動です。善を行うことです。

内的生活の使徒職

多くの人々が、内面的な生活よりも外面的な活動を重要視する誤りに陥っています。皆さんはこの誤りを避け、闘わなければなりません。第一の使徒職は、わたしたちの聖化という使徒職です。この使徒職を免除される者はいません。この使徒職にだけ召された魂もありますが、この使徒職がなければ、何一つ効果を発揮しません。ゼロが 3 つあっても何も存在しません（ゼロのままです）が、目の前に 1 を置けば 1000 になり、そのままゼロを 1 つ増やせば、必然的に値は大きくなります。常にそして第一に、内的生活の使徒職によってこの貴重な一致した体を形成することです。このことをよく理解しましょう。...

マルタとマリアを思い出してください。後者はイエスの足元に身を置き、自分を小さくしてへりくだり、罪の赦しを願い⁶、彼女は神である師に助言を求め、師から伝えられる素晴らしい事柄のために身を起こします。マルタがやってきて、その様子を見て、少しうらやましく、腹立たしく思い、勇気を出してイエスを非難します。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」(ルカ 10,38-42参照)。自分にもマルタに対するイエスの叱責に相当することがないか、考えてみてください。彼が、使徒たちと一緒にベタニアに行ったのは、特に休息とリフレッシュのためでしたが、マルタはもてなしの第一の義務を忘れていました。それは、招かれた人との交わりです。彼女はおそらく、親密な愛からというよりも、社会的な面目から行動していたのでしょう。イエスは彼女を呼び戻し、悟らせました。イエスはマルタの仕事を叱責したのではなく、主要な義務を忘れてしまったことと、その疲弊した状態を指摘されたのです。あなたたちは、朝の最初の2時間をイエスのために費やさなければなりません。一日の始まりに、最も良いことに専念すれば、他のすべてが祝福されるでしょう。外的な仕事を効果的にサポートするために、内的な生活をより大切にすること。...

多くの神の言葉が世界に広められていますが、それを養い、成長させる人がいないため、多くは道の上、砂利の多い土、茨の間に散らばっています。神に満たされた魂は、目に見えない形で、しかし同じように確実に、恵みを引き寄せ、善い働きをします。聖母は、他のどんな人や被造物よりも、多くのものを注がれました。家庭の母親たちは、家族全体を聖化するために自分自身を注ぐのです。もし、ピエ・ディシエポレたちが、真の内的ないのちを持つ魂であったなら、彼女らはどれほど多くの恵みをわたしたちの共同体に、キリスト教世界に注ぐことでしょうか。不信仰者、異教徒、分かれた者たちに届くように、多くの恵みを注ぐことでしょうか。召命を増やし、司祭を聖化しなさい。恵みはそこにあるので、それは魂

⁶ルカ 7章にあるように、アルベリオーネ師は、ベタニアのマリアを罪人と同一視した当時の解釈を紹介しています。

のために恵みを得なければならず、恵みに満ちた人は魂を得ることができるのです。内的生活の魂（人）の謙虚な働きによっては、恵みによって魂を得たことを悟ることはありませんが、神の審判の時にそれを悟り、その時、自分によって救われた多くの魂に驚くことになるのです。

一生働き続け、行ったり来たりし、汗をかき、歩き、苦勞して、何も成し遂げられない人がいるのは、内的生活が欠けているからです。彼らは統一性のないゼロであり、外見上は少し形を保つかもしれませんが、実を結ぶことはありません。

その必要性を本当に信じているのですか？ 納得していますか？その土台を崩してはなりません。無駄な生き方をして、消滅してしまう存在がどれほど多いことでしょうか！ どれだけの作品が空っぽなのでしょうか！ イエスが聖ヨハネについて言った言葉を思い出してください。「彼は燃えて照らす灯火だった」。まず（自分が）熱心になり、次に啓発するのです。世界を救うのは活動ではなく、恵みであり、外面的にしか働かない者ではなく、聖人たちなのです！⁷

あなたは、自分の持つ美しい召命、キリストの中にあるあなた方のいのちを、聖師の弟子たち（師イエズス修道女）を見ることが出来ます。もしあなた方がもっともっと多くの光を得たなら、あなた方の人生は喜びのうちに過ぎ越すでしょう。わたしは神から特別な恵みを受けています、神から恵みを受けているのです。主はわたしを愛してくださいました。そして、初めにわたしたちを愛してくださいましたこの素晴らしさで、イエスは今もわたしたちを愛してくださいています。実際、わたしたちがイエスを愛し、真の修道生活をおくること、つまり、神への奉獻である誓願を生きれば、イエスはますますわたしたちを愛してくださいます。《わたしはすべてを与え、捧げ、奉獻します》。それなら、修道者たちの口から、特に聖師のものであるあなたたちの口から、どれだけのマニフィカトが聞かれることでしょうか。彼がその道です⁸。

⁷ APD 1946-47, 268- 284.

⁸ APD 1957,146.

『生活の規範』より

5.

修道会創立の出来事は、教会の中で十字架の刻印を伴う紆余曲折を経て熟していく。

ヤコブ・アルベリオーネ神父は、最初、師イエズス修道女を聖パウロ女子修道会から「別のものとして分けて」創立しようとしたが、法的手続きの段階で、両者は一つの会として承認される。

創立者とマードレ・スコラスチカの介入、ティモテオ・ジャッカルド神父（1896年-1948年）のいのちの奉獻をとおして、本修道会は教会から正式に認められ設立される。

1947年4月3日、聖木曜日に教区法承認の省令が公布される。

1948年1月12日に与えられた聖座の承認と1960年8月30日の最終認可によって、わたしたちの靈性は普遍的性格と使徒的効力を有することがより明確になる。

ヤコブ・アルベリオーネ神父の列福は、わたしたちが受けた召命を教会が識別し、確認したことを表す。

13.

イエス・キリストの愛に捕えられて、わたしたちは自由に自ら、彼にしっかり留まる。

こうして御父へと導く新しい生ける道に、自由にする真理に、喜びで満たすいのちに入る。

「わたしはキリストとともに十字架につけられている。生きているのはもはやわたしではない。キリストがわたしのうちに生きておられる。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるのである」という過越の神秘のうちにキリストにまったく形づくられるよう新しいいのちの道を歩む。

恵みの記念のために重要な日

1946年4月13日：修道会聖省は、反逆とみなしたため、師イエズス修道女会における派遣任期を取り消したことを、書簡をもって、マードレ・スコラスチカに通達⁹

2003年4月27日：ヤコブ・アルベリオーネ神父が福者に宣言される

1963年5月8日：マードレ・スコラスチカがアルゼンチンからイタリアへ帰国

2023年6月3日～29日：第10回総会 “わたしは主を見ました！出会いの美しさ、派遣の喜び”

1897年7月12日：グアレーネにてオルソラ・リバータ誕生。彼女のうちに神の計画が始まる

1946年7月20日：マードレ・スコラスチカがイタリアを後にしてローマからパリに出発¹⁰

1922年7月29日：オルソラは、父親のアントニオに付き添われて “サンパウロへ”¹¹

1941年8月6日：マードレ・スコラスチカ、修道会のためにいのちを奉獻する¹²

⁹『大樹の起源を見る』131 ページ以降参照（ページ数はイタリア語原本のもの）

¹⁰『大樹の起源を見る』142 ページ以降参照（ページ数はイタリア語原本のもの）

¹¹『大樹の起源を見る』32 ページ参照（ページ数はイタリア語原本のもの）

¹²1941年主の変容の祝日、ご自分の時に向かう歩みにあるイエスを観想する日に、（マードレ・スコラスチカは）次のように書いている。「今日、8月6日、イエスの変容の祝日に、わたしは師イエズス修道女会のためにわたしのいのちを捧げます。わたしは、この目的のためにわたしを送ってくださること、そして、わたしの人生でのすべての不足をおまけすること、神の愛の完全なわざのうちに死ぬことが、主にとって喜ばしいことであれば

1924年8月15日：聖体礼拝が昼夜の永久礼拝となる¹³

1946年8月24日：修道者聖省の省令は、「聖パウロ女子修道会から、師イエズス修道女と呼ばれるグループの法的独立を」¹⁴否定し、**8月26日**、アルベリオーネ神父は《命令されたことに従うことは、一番確かで、一番甘美なことである...》¹⁵と書いている。

1960年8月30日：わたしたちは聖座法最終承認を受ける

¹⁶

それらをすべて受け入れることを望みます。全てはイエスとマリアの助けによって」》, G. オベルト 『マードレ・スコラスチカ・リバータ、神の奉仕への喜び』 2008年 28ページ

¹³ 『大樹の起源を見る』 51 ページ参照 (ページ数はイタリア語原本のもの)

¹⁴ 『大樹の起源を見る』 146 ページ以降参照 (ページ数はイタリア語原本のもの)

¹⁵ 『大樹の起源を見る』 149 ページ参照 (ページ数はイタリア語原本のもの)

¹⁶ M.M.ルチア・リッチの回覧文 1960年10月22日ローマから PDDM 総文書保管庫

**CONGREGAZIONE DELLE
PIE DISCEPOLE DEL DIVIN MAESTRO**
Casa Generalizia – Via Gabriele Rossetti, 17 – 00152 – Roma

<http://pddm.org>